

オオカワヂシャ調査とカワヂシャ保全

手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会

特定外来生物オオカワヂシャは、在来種カワヂシャと交配し雑種形成をするため、全国版レッドデータブックでは、カワヂシャが準絶滅危惧種（NT）に指定されており、近年はオオカワヂシャの大繁殖と駆除について各地から報告されている。

2011年度手賀沼流域フォーラム事業として行われた「大津川河口の清掃」の折にオオカワヂシャの生息を確認し、2012年度から主に手賀沼および大津川の調査を実施してきた。



●2012年度大津川の岸辺調査 本流の下流～中流の宮下橋付

近までは、岸辺の土砂堆積地に、オオカワヂシャが大小の群落を形成し、点在していた。宮下橋の直上流で、逆井方面から流入する支流では、水路上に張り出して成長している群落が多数確認され、この支流が下流や手賀沼への主な供給源となっていると推察された。

大津川調査 中の橋→宮根橋→権現橋



大津川調査 権現橋⇒下橋⇒宮下橋⇒芦川橋



●2013年度から2014年度調査

2013年度は大津川本流と主な支流を全て調査し、逆井方面①の支流のオオカワヂシャが拡散源となっていることを確認し、2014年には、引き抜きによる駆除を開始した。

また、芦川橋から松戸市六高台方面②支流に自生しているのは、ほとんどが「カワヂシャ」であることが判明した。オオカワヂシャも3株確認された。この地域のオオカワヂシャの侵入は初期段階と判断され、防除の重要性を確認した。



逆井方面支流のオオカワヂシャ